

# 東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	編集後記
別タイトル	EDITORIAL POSTSCRIPT
作成者（著者）	東邦大学医学会編集委員会
公開者	東邦大学医学会
発行日	2024.06.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 71(2).
資料種別	その他
著者版フラグ	publisher
メタデータのURL	<a href="https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD96176922">https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD96176922</a>

## 編集委員会

編集委員長：船戸弘正  
編集委員：狩野修  
村上義孝  
大塚由一郎  
田中京子  
編集顧問：中野裕康

松田尚久 三上哲夫  
内藤篤彦 南木敏宏  
佐野厚 高橋寛  
津熊久幸

(ABC順)

## 編集後記

海外の人も驚く日本の不思議な慣習にエスカレータの乗り方がある。日本では歩いて昇降する人のために片側を空け、もう片側に立ち止まって乗るのが「ルール」である。一方、欧米ではエスカレータ内を歩く自体が危険な行為と認識され、それを破ると怒られることもあるそうである。最近、日本でも「エスカレータ内では立ち止まろう」キャンペーンがあったりするのだが変わらない。社会に浸透し定着してしまった悪弊は、それがたとえ不合理であっても簡単にはなくならないのであろう。

医療統計でも「変な形で浸透・定着した」悪習があり、その代表がp値の不適正使用である。臨床研究では結果の始めにTable 1で研究団体の特性を示すことが多いが、これは「こういう集団について研究しましたよ」という説明が目的であり、本来、この段階で統計的仮説検定をする動機はない。ランダム化比較試験で群間に偏りが無いことを示す目的で検定している例を見かけるが、STROBE声明では 'Inferential measures such as standard errors and confidence intervals **should not be used** to describe the variability of characteristics, and **significance tests should be avoided in descriptive tables.**' として、データの記述を目的とした表から有意性検定は排除するよう厳しく書かれている。なのに無くなるならない。これも社会に浸透した習慣は一朝一夕には変わらないことの現れだろう。

ではこのような悪弊をどうしたらよいのだろうか。教育

による働きかけ、ルール（法律）の制定など様々な方策が考えられる。時間経過（人々）とともに無くなるという考え方もあろう。この編集後記もその一助になればと思う。

(村上義孝)

## 東邦医学会雑誌 第71巻 第2号

令和6年6月1日発行

編集兼  
発行人 船戸弘正

〒143-8540 東京都大田区大森西5丁目21番16号  
東邦大学医学部2号館M1階 医学メディアセンター内

東邦大学医学会

(振替口座 00190-6-95793)

tel. 03-3762-4151 ex. 2465/fax. 03-3764-1642

e-mail: igakukai@med.toho-u.ac.jp

http://tms.med.toho-u.ac.jp

東京都北区西ヶ原3-46-10

株式会社 杏林舎